

令和6年度教育事業「はなやま通学合宿～自然の家から学校へ行こう～」事業報告

- 1 趣 旨 家庭から離れて、他の学校や異学年の仲間との共同生活を送ることにより、基本的な生活習慣を身に付けるとともに自立心や社会性、協調性等子供たちの「生きる力」を育む。
また、同一中学校区の仲間たちとの交流を通して中1ギャップ解消に向けての素地を養う。
- 2 主 催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家
- 3 共 催 栗原市教育委員会
- 4 期 日 令和6年12月1日（日）～7日（土）【6泊7日】
- 5 参加者 栗原市立築館小学校5～6年生の児童 11名
栗原市立宮野小学校5～6年生の児童 2名
栗原市立花山小学校5～6年生の児童 3名
栗原市立鶯沢小学校5～6年生の児童 7名 合計23名
- 6 場 所 国立花山青少年自然の家
- 7 日 程

令和6年度「はなやま通学合宿」日程表

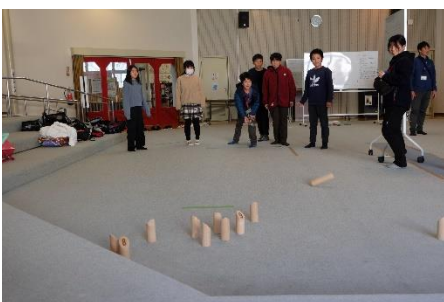
| | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | | | |
|-------|----|-------|---------------|----|------|---------------------------------------|----|----|----|----|----|----|--------|--------------------|----------------|----|---------------|----------------------|----------------|----|
| 1日目 | | | | | | | | | | | | 受付 | 夕食 | はなやまタイム① 学習・交流等 | 入浴 休憩 準備 | 就寝 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 自然の家職員&ボランティア | | | |
| 2～6日目 | 起床 | 洗面・清掃 | つどい | 朝食 | 出発 | 各学校での学習・生活 ※登下校については自然の家のバス等で送迎する。 | | | | | | | | | | 迎え | 夕食 | はなやまタイム②～⑥ 学習・交流等 | 入浴 休憩 準備 | 就寝 |
| | | | 自然の家職員&ボランティア | | 学校職員 | | | | | | | | | | 自然の家職員&ボランティア | | | | | |
| 7日目 | 起床 | 洗面・清掃 | つどい | 朝食 | 退所準備 | みんなで野外炊事を楽しもう！ | | | | | | | 別れのつどい | 解散 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 自然の家職員&ボランティア | | | |

8 活動の内容について

【12月1日（日）1日目】「出会いのつどい、はなやまタイム①（PA）」



【12月2日（月）2日目】「築館・宮野早帰り・学習風景」



【12月6日（金）6日目】「CS風景」



【12月7日（土）7日目】「野外炊事風景」



9 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：75% やや満足：25% やや不満：0% 不満：0%

参加者20名に対して行ったアンケートは、満足群が多く、概ね好評であったといえる。

※他3名はインフルエンザ・体調不良で途中帰宅の為アンケートなし

(2) 参加者の声

- ・違う学校の友達と仲良くできてよかった。お互いに気持ちよく生活できるように声を掛け合えるようになった。
- ・職員さんやボランティアさんに声を掛けてもらえてうれしかった。
- ・はなやまタイムが全て楽しかった。
- ・星空観察もまたやってみたいと思った。
- ・自分で洗濯ができるようになった。今まで家族がやってくれていたことに感謝したいと思った。
- ・やったことがないことがあって新鮮だった。
- ・友達づくりの大切さが分かった。
- ・自分で誰かに積極的に話し掛けられることに気付いた。

(3) 成果

- ・1週間の共同生活をし、互いに気持ちよく生活するにはどうすればよいか考えながら、新しい経験を積むことができたことは、参加者にとって大変有意義な活動になったといえる。
- ・普段家族に頼っていた様々なことを、自分で考えながら生活する経験を通して、家族への感謝の気持ちを持たせるきっかけになり、自立することの大切さに気付かせる機会になった。
- ・1日目のPA「ビーイング」から毎日の振り返りの時間を大切に。「ビーイング」は各班みんなで加筆、修正しながら発展していった。自分たちが作った自分たちのためのルールであることを理解し、自分から仲間づくりに取り組もうとする姿勢も、日を重ねることで多く見られるようになった。

(4) 課題

- ・対象の4校から参加申し込みがあったものの、他3校からの参加が得られなかった。12月1週目に金管バンドの練習会や学年行事、校外学習等が設定されており、学校により参加者の学年、人数にばらつきがあった。事業の目的の一つである「同一中学校区の仲間たちとの交流を通して中1ギャップ解消に向けての素地を養う。」という点で課題が残る。栗原市教育委員会の協力を得ながら、対象学年への直接の説明機会の設定をさせていただき、参加者ができるだけ均等になるようにしていきたい。

担当：主任企画指導専門職 川村 宜丈